

常識の定義

大阪府土木部 岡 尚 平

本誌に投稿しろといわれていささかとまどい
ました。というのは、いろいろとお世話になっ
ていますが、卒業者でもなく、在職したことも
ない者が指名されたのを不思議に思ったからで
す。現代は狭い範囲の定義のなかを、ミクロ的
に現象を追求するののも一つの進め方ですが、既
存の定義の枠そのものをみなおしてみる時期だ
と思います。その意味で、外部にまで自由な雰
囲気の香る大阪大学には従前より慶意を表して
いました。

帰国後、年代の差による意識の格差が指適さ
れているのをよく理解しないまま、日本の社会
で勤めています。GNP 大国が平和共存と発
展途上国の経済開発を目指した国際協力のため
に、道路技術者として家族と共に暮らした東ア
フリカでのことを思い出します。風光明媚なウ
ガンダ国は、かつて英国の保護領となっていま
しましたが、1962年に民族独立に目ざめて Mutesa
を中心に独立しました。その後 Obote、さらに
Amin 大統領による軍事革命で政権が交替し、
急速な左傾化へ進みましたが、私の居た70-72年
には、まだまだ英国の潜在力が強く、さらに彼
等につれてこられた印度人や、その他の外国人
が経済の実権をとっていたように思えました。

独立後まだ日が浅く、発展の強い意識にあふ
れた若い黒い人の国ですが残念ながら行政事務
の経験者が少く、私の勤務した公共事業省でも
スタッフ職員の8割は外国人が占めていました。
その外国人も旧英勢力が次等に後退し、国連や
二国国ベースの派遣による短期雇用(約2年)
の者が増えてきています。そんな状況のもとで
私自身は道路の工事責任者を勤めたわけですが、
民族によって、常識というものにまったく
格差があることをつくづく知らされました。

例えば、四角く机に向って集まった会議で

も、着席位置は日本の習慣と異って、全員を見
渡せる短い陵に決断責任者が、長い陵の中央に
事務局が座ります。決断者が英国人であるとき
の会議の進め方は、参加者全員に意見を求め各
人が各人の能力の範囲で議題にどれだけ参画で
きるか十分喋べらせて、あらかじめ大局の方針が
出たところで最後にリーダーから参加者各人が消
化できるだけの仕事量があてがわれます。これ
では強引に全体を引張って効率よく現象を処理
することはむしろかしいかもしれませんが、各自
がそれぞれの能力を発揮して参画しているとい
う意識を生かしますし、会議中に現象処理法の
賛否両論からのアイデアが続出し、問題の全望
をよくみつめることができます。

家庭でのパーティーは集まった人々が壁にも
たれるようにして座り、全員の顔をみながらど
こからでも、誰にでも話題を提供し、共通の広
場をみつけやすく、楽しませてくれます。植
民地政策の良い悪いは別として、本国のわずか
な人口に拘わらず、七つの海を長い期間に渡っ
て統治した古いイギリス時代の方法論ではない
でしょうか。

それにくらべると、日本はいろりを囲んだ団
らん、経営者と雇用者が机を前に向いあうなど
狭い中心に向って物事が話し合う方法が定着し
ているようです。そのため問題の解決は早く、
一致団結しての動きも早く、その活動力が、
いち早く経済発展の実績をあげたと思います。
しかし、問題処理を主目的としたこのような
方法論から生れた常識が、経済進略の張本人だ
と、私達の援助の意に反した批判となって、世
界の人々が口にするようになりました。

ほんの一例の小話だけで与えられた紙面が
つきてしまいましたが、現代の日本の経済経営
の責任者である昭和1ケタ以前の人の幸福の常

識の定義の枠が、経済繁栄を謳歌した時代に育った若い人の意識に、全部が全部受け入れられるにもありませんし、ましてや、島国と異民族に地つっきの大陸の国、風土気候、天災などと、多くの条件が複雑に絡らみあいながら数千年の歴史を経たのが、現代の世界の国とか人達の姿で、それぞれが互に影響をおよぼすとな

ると、私達が常識と思っているものも、案外私達の狭い範囲から生れた定義の枠のなかのみで通用するものであって、これが、別の世界に育った人達からみた場合、不都合なこともあろうし、また、そのような批判がすでに私達の周辺に起っていることを認めなければならない日本の現代だと思ったりしています。(48, 4, 15)